

# あなたもビジルをしませんか

佐藤 豊

私は毎月第2水曜日の午前 11 時から正午まで、東京の上野駅公園口で「ビジル」という活動をしています。「ビジル (Vigil)」とはあまり聞きなれない言葉ですが、英和辞典などでは「教会祭日前夜の徹夜の祈り」と出ています。そこから発し、強い祈りの心を持つ各種の行動をも指すようになったようで、東日本大震災の被災者のために、ロウソクをもって祈る「キャンドル・ビジル」が世界各地で行われたことなどが報じられました。ご存知の方もおいででしょうが、私たちのビジルは日本友和会の田中良子前理事長が6年ほど前に始められた活動で、現在は5人の日本人と2人の中国人の仲間がいて、毎月4, 5人が参加しています。私たちのビジルでは胸に「日中不再戦」「戦争をしない日本」「原発でなく自然エネルギーによる発電を」など、心に強く祈り、願っている言葉を書いたゼッケンをつけて、上野駅に集まります。「スタンディング」という言い方もあるようですが、私たちは公園口の東京文化会館の低い石垣に腰かけ談笑しながら、通る人にゼッケンの訴えの文字を読んでもらっています。署名を集めたり、カンパを集めたりはしません。また、声を出して呼びかけをすることもしません。祈りの心の表明と実践ですから、静かにアピールを続けます。

上野公園には多くの国内外の観光客が訪れます。老若男女、修学旅行生、外国の旅行者も多くいます。ビジルをする私たちを見て、無視する人が多いですが、目顔でうなずく人、話しかけてくる人もいます。私たちは問われれば趣旨を説明しますし、写真を撮らせてほしいと頼まれれば快く応じ、一緒にカメラに納まります。日本人は興味を態度で示すことはあまり得意では無いようですが、海外からの観光客は興味津々の人が多いようで、英語、中国語などでよく話しかけられます。特に「日中不再戦」を掲げているときは中国人の観光客から、しばしば写真を撮らせてほしいと頼まれます。「これを帰国してからネットに載せて広めたい」と言うひとが何人もいました。

様々な反応のあるビジルですが、やろうという意志を持った人がいれば、すぐにどこででもできる、最も簡単な活動でもあります。人々が上野駅前で待ち合わせて美術館、博物館、動物園に行くように、私たちはここで仲間と会って談笑しながら、私たちの心の叫びをゼッケンで見てもらっているだけです。集会のように場所を確保することも、デモのようにコースを届け出る事も必要ありません。簡単ではあるものの、市民一人一人が自発的に集まり、自分の意志を表してゆくビジルのような行動は、民主主義にとって最も根源的な行動であると考えています。私は、後期高齢者となりましたが、会社員の現役時代には労働組合や、職域団体などを通じて、安保反対運動や平和運動などに加わってきました。そうした組織、団体の活動により培われた平和主義、民主主義の精神を、組織を離れた一市民となった今こそ、「我一人であっても」という揺るぎない「真の市民意識」に育て上げて活動してゆくことが大切であると痛感しています。

現在、政府与党は「共謀罪」「改憲」などを数の力で押し切り、かつての軍国主義への道を推し進めようとしています。だからこそ戦争への道に反対を続ける強い意志を、一人一人が「真の市民意識」を持って生涯にわたって表し続けることの大切さが問われるのです。かつて日本人は「大本営発表」に象徴される、誤った情報操作によってコントロールされてきました。その先兵となったのが新聞社とNHKラジオでした。けれども、そこに至る間に、非戦的、平和的な論調に対して、時流に乗った「愛国者」や「市民」を名乗る者が攻撃を加えて、時には新聞社を焼き討ちし、「市民」の側が戦争への道を煽ったことも忘れてはなりません。その風潮は、現在でも海外で対日問題が過熱化した際の反日行動になったり、日本ではヘイトスピーチとしても表れています。そうした時流に乗った大声にか

き消されることのない、反戦、平和の变りない強い意志を静かに粘り強く表してゆく活動の一つが「ビジル」なのです。最初にビジルを始めた田中さんは自ら語ることはほとんどありませんでした。それでも私たちは友人・知人から聞き、仲間是一人一人と増えています。一人の市民として声を上げ続ける人が次第次第に増えていることもまた大きな潮流なのです。

私は国会前の集会にも参加しています。改憲の動きに反対する文化人や研究者、市民が呼びかけ、様々な市民団体や労働組合、政党が協力し合って開いた大集会の中で、若い人たちが力いっぱい叫ぶ「共謀罪反対」や「安倍改憲反対」のシュプレヒコールに、市民の一人として唱和してきました。一人一人の市民がいつでも参加でき、実践できる静かで身近なビジルのような活動が日本中にあると同時に、そうした力を総結集する大きな反戦平和、反原発、生活擁護などの様々なイベントが時に応じて開かれてゆく社会となってゆくよう願ってやみません。ビジルをやっていて、「写真を撮らせて下さい」という中国の人に、「中国でも『日中友好』や『日中不再戦』を掲げてビジルをやってみませんか」と問いかけています。誰もがそれをできることが民主主義の、そして世界平和の原点であることをも理解して欲しいし、輪を広げてゆきたいからです。

最後に全く別の視点から私見を述べることをお許し下さい。私は仏教徒ですが、心の内に聖なるものを抱き真摯に祈り、実践をしているキリスト者を大変に尊敬し、心強い仲間であると思っています。古くは反奴隷制度から公民権運動、ベトナム反戦運動などを戦い、世の中を変えてきたキリスト者にとってビジルは接しやすく近い存在ではないかと勝手に思っています。そこで輪をもっと広げるために日本友和会会員の方々にも呼びかけます。「あなたもビジルをしてみませんか」。